

(発言者) ● : 委員

■ : 事務局

## ＜意見交換＞

### 1. 河川整備計画の点検について

● 樹木伐採が難しい場所があるということだが、どういうことか。

■ 高水敷の一部に民地があり、地元の方との交渉等が必要になってくる。そのため、一部は伐採できないかもしれないということ。

● 河口テラスは安定しないものなので、洪水の後に膨らんでしばらく洪水が来ないとやせてくる、そういうことを繰り返しているという目で見えていくことが必要。

● 河川整備計画のいろんなメニューが示されていますが、これは最終的にはいつに対して完成すればいいのか。また、現在はその中で順調にしているのか、あるいはおくらせているのか。

■ 整備計画策定時点でおおむね 30 年間の事業メニューを位置づけているため、平成 19 年から 30 年間の目標に実施するもの。30 年間で整備計画を終わらせることで、これまで整備計画策定後 6 年ほど経過している。単純に 30 年分の 6 年と考えると 5 分の 1 になるので、進捗率が今 27% になっていることから、進捗としては進んでいる。

● 9 ページのグラフは、平成 23 年 9 月洪水の水面高に対して樹木を伐採したときの効果を見ているということでしょうか。

■ 伐採前の樹木をゼロにしていることよい。

● 計算は準 2 次元計算の中で、死水域として捉えて計算しているということでしょうか。

■ よい。

● 実際の樹木伐採では、ある程度緑を残す、市民・自然保護の方と共同のもとで樹木を伐採していくことになるだろうから、このグラフは理想的に伐採したらこうなるという理解でよいのか。

■ よい。別途事務所内で樹木に関する検討会を立ち上げており、そちらのほうでご意見をいただきながら配慮すべき点については配慮しつつ、伐採を計画している。

● 樹木を残すような場合には死水域とならないような条件でやって、しかも効果があるというような計画をつくるということでしょうか。

■ 今回伐採を計画しているところについては、基本的には全面的に伐採するような計画になっている。

●14 ページの右側に地震前から25年8月までの平面図形と、その下部に縦断図形があるが、図を見ていくと縦断図を描いた線の上では、一番下の河口砂州の縦断図がうまく反映されていないので、時期の違うものをあらわしているように感じるが、この点はいかがか。

■海浜地形の縦断を示しているところと写真の時期は合っていないが、平面図の方は合わせてある。

●14 ページの下のグラフを見ると出水のイベントに対してテラスが海側に流されたり、海側の砂帯がまた戻るような経過もわかるので、こういうデータを積み重ねて見ていくと河口の状況はよく反映できると思われるので、こういうものの検討も精査してほしい。

■わかりました。

●外水と同時に内水の表示というものも必要になると思う。現地のオンサイトで水位計なり、そういうわかりやすいものがあれば住民の方というのはそれを指標にして行動もできるのではないかと思う。全体計画としてこういうものの情報の利用というのをどうするのかというのをご検討いただければありがたい。

●浄水汚泥の放射能が高く、保管場所に苦慮している。

●土砂等が足りない。以前は阿武隈川の砂利を採取できたが、環境破壊等河川を管理する中で問題等があったので、これは禁止になっている。今のように土砂不足になってきたときは、土砂は放射能の心配があったりもするので、土砂についても目を配っていただいたらありがたい。大変厳しい予算であるが、我々としてはしっかりと命も財産も守っていただいているということもあるので、自信を持って対応していただけるとありがたい。

●X R A I Nから配信される情報は、気象庁との関係はどうなっているのか。内容を調整の上で直されているのか、別々なのか、そこをお伺いしたい。

■国交省のレーダシステムであるため、今時点では気象庁と特に連携して整備等しているわけではない。

●情報の配信先は、学校とか幼稚園とか介護施設とか病院とか、避難に時間を要するところへ先に配信するようなネットワークの組み方をお考えいただくとありがたい。

●一般市民と我々自治体に同時に情報が着くと、こちらの準備が間に合わないため、少し早く自治体のほうに連絡いただくシステムはできないものか。あるいは自治体向けと一般市民向けと2種類の文字が出てくるとか、そんなことはお願いできるのか。

■今回整備しているメールの目的は、基本的に一般の方に、今こういう水位になっていますよ、あるいはこういう雨が降っていますというのを気づいていただくようなことでメールが送られてくるシステムになっている。役所の防災担当の方であればパソコンのほうでより詳細なデータ等が見られるので、例えば雨が降ってきたとき等には、そちらのほうを見ていただいたほうが防災

には役立つと思っている。

●XRAIN、XバンドMPレーダは河川情報センターで流しているもので、気象庁と国交省が勝手にデータを流しているわけではない。ある程度お互いにデータに齟齬がないような形でまとめて流している。インターネットで河川情報センターのページを見ると瞬時に出てくる。瞬時に出てくるということは、行政に先にとということはちょっと難しい。今1分前の雨がすぐ表示されるので、行政だけ先にするというのは、より突っ込んだ情報については行政のほうに先に回すということは必要だろうと思う。

■XRAINのデータは、今リアルタイムで一般の方に出している。あくまでも一般の方が見やすいような形で出している。得られたデータをどう加工して、それをどう治水対策並びに内水対策に活用していくかというところは、行政の腕の見せどころ。加工したデータを市のほうと共有しながらやっていくことが今後出てくる話だろうと思う。今後このデータはいろいろ活用していくことになるだろうと思う。

●阿武隈川にも多くの施設があるが、何のための施設かよくわからないので、こういうものだという説明を付けてよくわかるようにしていただくとありがたい。

●専門用語を一般市民にわかるように工夫いただけないか。

●樹木伐採は、国レベルでは国交省、林野庁あるいは農水省と提携して樹木伐採したものを、自治体のほうでもし手を貸せということであれば、例えば森林組合にちょっと声かけて、あるいは造園業者さん、あるいは場合によっては草刈りのボランティアを募ってご一緒できる、力・手を貸すこともできると思っている。

●阿武隈川ばかりでなく、そこに注いでいる支流のほうも大分樹木が生えているので、こちらも切れるといいと思っている。そういう意味で農水省系、林野庁系と何か連携をとっていただくとありがたい。

●陸上の3次元の地図があると非常に対策を講じやすいと思っている。避難誘導するときに納得してもらおう上では、3次元の地図が、ハザードマップがつくれればよいと思っている。

●北上川は3次元の立体図があります。

■3Dマップ等は検討していきたい。

●郡山市も阿武隈川がよく水があふれ出して内水被害とかいろいろ氾濫することがあるので、登録しなくても、見に行かなくても情報が得られるようにならないものかどうか。例えば阿武隈川の水位がどのぐらいですよというのがあれば川のすぐそばに住んでいる方も自分で行動を起こすチャンスというか、情報提供になると思う。

●→国交省が管理している水位はインターネットで公開しているが、ほとんどの人が知らない。ぜひその辺ももう少し周知する努力をしていただけるとありがたい。

●この場の取材の立場ではなくて、報道機関もメンバーに入れないものか。

●任期が決まっているので、それが終わると委員構成また考え直すということになっている。その機会に少しまたいろいろ考えてみたい。

## 2. 土地利用一体型水防災事業 再評価（二本松・安達地区）

●二本松・安達地区の部分というのは、前の資料の 4 ページの狭窄部の治水対策の二本松・安達地区のことか。

■先の資料 2 の 4 ページに記載している二本松・安達地区の事業と同じもの。

●資料 3-1 で計算しているベネフィットのほうには郡山の浸水被害も減るというベネフィットは算入されている。もし入っていないとすれば、ぜひそれも含めて計算していただきたいと思う。

■あくまでも今回事業再評価の二本松水防災事業に関する効果を述べている。

●二本松・安達の工事も上流のほうにプラスになるような工事をしていただいて、そしてベネフィットのほうに上流での浸水被害減少の効果を加えるということで工事をやっていただきたい。

■二本松・安達の事業は、上流まで大きく影響ある事業かということ、そうは言い切れない。河川というのは、上流で整備するとどうしても下流に負担がかかるため、下流のここの整備が済むことによって上流の次のステップに入れることになる。そのための事業ということで本宮地区とこの二本松地区の事業を早急に進めているという状況。

●地区の B/C というものも上流から下流まで並べて比較できるようなものがあると非常に流域としての評価というものが見えやすい、可視化しやすいと思う。そういうものを用意していただくと非常にいいと思う。

●ベネフィットの出し方については、この阿武隈川に限らず全体のベネフィットと個々の事業のベネフィット、これの出し方に関してはいろいろもう少し工夫を考えていただけるとよい。

●水害対策でやっているわけですから、やはり上流、下流にどういう便益あるのかという視野でやっていただきたい。

●50 年後の流域の資産価値等は、どういうシナリオを置いているのか。

■事業が終わる予定の平成 27 年度の資産ベースを原本にして、金額は減価償却率を掛けて算出している。

●今後の農地とか、周辺の人口というのは非常に不確実性が大きいと思うので、事業計画を考えるとときには将来のオプションとか、不確実性の対応とかを別途考えていただかないといけないと思う。

■治水経済マニュアルの指標でこの数値は出しているが、参考にさせていただきたい。